としたら、一刻も放とけんで……南絲草が枯れりや赤梅檀の貴方も枯れにや成らぬ、貴方が枯れりや俺しも一處や。なア次兵衛どん。俺や此通り氣の附かん人間ぢや。どうぞ貴方が蔭へ廻て店の者へも露の降りる様にして遣とくれ。宜えかな。それが頼み度さに忙がしい中を呼び附けましたのぢや。いや。お手留めて濟まなんだ。さゝ、お前さんが居にや店は暗闇ぢや。早ふ帳場へ坐つとくなされ。どふぞ相變らず頼みますぞ。……」

暇が出ると思ひの他、流石は大家の親旦那、叱言らしい事は一言も言はず、説教を引例にして、自分許り樂しみするのが能や無い。チツとは他にも余猶をつけて遣れと云ふ結構なお心でおます。聽いた番頭がカンシンの股を叩つて膝頭砂だらけ。

「ウツヘー。……何とも有難い事でムります……。」

「えゝショム無い贔屓なはんな。アハハハハ。や阿呆咄で暇潰さした。堪忍してや。ハイ御苦勞さん……あゝ。チヨ、チヨ、チヨツと待つとくれ。まア。モ一遍坐てんか……まアお茶喫みいな。冷めてたら入れ替えさすで。貴方甘い物は何ふや知らんが嫌ひや無かつたら抓んどくれ。……時に次兵衛どん。昨日はエライお樂しみやつたナ……。」

「ウワツ。ヒエー……。實はその……お得意の旦那衆のお供で……」

「あゝ左様やつたかいな。併しなア番頭どん、得意先のお方と一處に往ても、決してお錢は遣ひ負けしとくなさんなや。先様が五百圓遣ひなさつたら、此方は千圓遣ふとくれ拘まやへん。左うで無いと商法の刀尖が鈍りますぢや。……が昨日の遊び方の様子では、そんな見つ共無い事してやへん。夫れは一目見たら解るわいな。……昨日お前はんが踊つてやつたのはありや……フム左様や〳〵、越後獅々やつたかいな、いつの間に稽古してやつたんか知らんけども、中々巧い物やがな。……子供の時は隨分不器用な兒やつたのになア。……貴方内へ來た時の事覺えてるか。早い物やモウ三十年から成るなア。内へ肥料汲みに來る甚平ちウ男の世話で、お前はんが内へ來たんや。色の黒い痩せた兒でなア……これはとても間に合ふまいが。まア〳〵當分遊ばす意りで置いて遣たら良えがな云ふて、置く事にした處が何と又豪い小便垂れや。……死だ婆どんが彼の通りの潔癖性やろがな。毎日〳〵怒つてなア……。去なす〳〵と八釜しい云ふのを、まア〳〵ちウて留めては居るがどふしても小便垂れが癒らん。とうど灸點据えたら良えやう云ふので、肩脫がした處が、あんまり色が黒いので墨で點下ろしても見えんのや。仕様が無い依て仕舞ひに白紛で點下ろした事が有るがナ。使ひに遣りや迷子に成つて大騒ぎするやら、買物に出しや錢落して泣いて歸るし、三年掛つて漸ふ二桁の寄せ算覺えたんやで。まア世にも不細工な兒やつたのに、昨日の手際は中々どふして。鮮やかな物やつたで、ソレどないや云ふのやつたいな。あゝツツンツ、シツンツ、ツツチートツツンツンかいな。此處に孫の太鼓が有る俺しが一遍叩いて見るさかい、鳥渡演つて見せてんか。……イヤ嘘ぢや。ハツハツハハハハ。嘘